

# 金川町・田園町住民コミュニティバス運営協議会 (福島県会津若松市)



狭隘な交通空白地へのコミュニティバス運行について、不調に終わった実証実験後も約2年にわたり住民・市・交通事業者による議論や検証を粘り強く行い、**住民主体の運営協議会を立ち上げ本格運行を実現するとともに、地域の関係者が協働した運営を行うことで安定的な運行を確立・維持。**

## (取組の概要)

### 1. 「みんなが当事者」、住民・市・交通事業者による役割分担

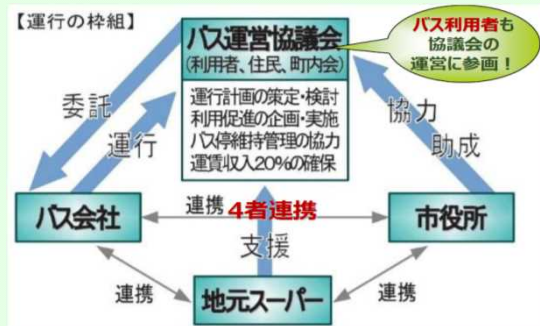
- 約2年にわたる議論の中で、地域の関係者の役割分担を決定。
- 本格運行後も、**地元スーパーや非利用者からの支援・連携を拡大。**  
(買い物金額に応じたポイント特典、寄付者からの応援メッセージ掲載)

### 2. 「お願い」からの脱却、住民主体の議論・検証

- 本格運行に向けたヒアリングや記名式アンケートには**町内会が全面的に協力。**
- **利用希望者を住民の口コミで探す運動**を展開。度重なる意見交換によりニーズを把握。
- 住民主体の運営協議会を設立し、本格運行を開始。
- **運賃収益の基準額を設定(運行協定)**→基準収益の確保は協議会の使命

### 3. 本格運行を継続するための不断の取組

- **毎月1回の運営協議会の開催、記名式アンケート(回収率70%)の実施**(運行実績の確認と共有、住民の実情を踏まえた現実的な分析、各種利用促進策(乗車体験ツアー、定期ランチ会等)の検討)  
→**民地へのバス停増設や増便を実現**
- 実証実験時から**運行量は4分の1以下に縮減した一方、利用者は3倍近くに。**



**スーパーの特典**

金川町・田園町コミュニティバスをご利用の皆様へ

**リオンカードポイントカード 特典のご案内**

金川町・田園町コミュニティバスをご利用の皆様だけの特典!!

- その1 住居コミュニティバス会員券をお持ちの方 → **20ポイント進呈!**
- その2 リオンカードポイント券 6枚で → **交換できます!**

**全戸配布チラシ(応援メッセージ)**

「さわやか号」の運行に多くの応援をいただき、ありがとうございます!!

10年後はお世話になるスタートの時だけ...とならないように

「さわやか号」の運営、運営に支障なく、安心してご利用いただけるよう、地域の皆様からのご声援をいただき、地域の活性化に貢献してまいります。

「さわやか号」応援寄付金活動



のぼり旗を作成

「この週は〇〇さんが通院で使うようになったので利用者が増えている」

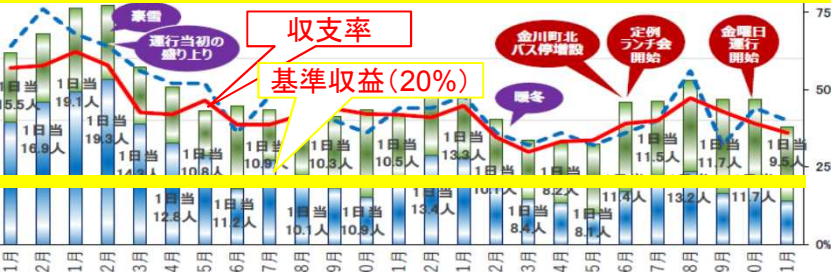
**不断の取組により基準収益を安定的に上回り、持続可能な運行を実現**

#### 実証実験時(H23.7~H24.3)

一日あたり運行量	一週あたり運行量	一日あたり利用者
9便(3コース)	63便(3コース)	4.1人

#### 本格運行後(H26.11~H29.1現在)

一日あたり運行量	一週あたり運行量	一日あたり利用者
3便(1コース)	15便(1コース)	11.8人





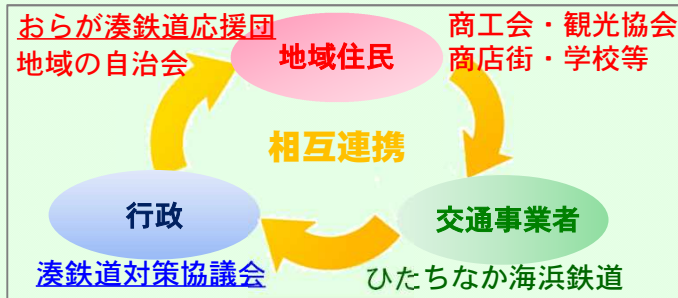
# おらが湊鐵道応援団、湊鐵道対策協議会 (茨城県ひたちなか市)



廃線の危機を迎えた湊線の存続をかけ、地域住民が中心となり、行政、自治会、商工会議所、観光協会、学校等を巻き込み、マイルール意識の醸成及び利用促進に関する活動を継続。  
 「ひたちなか海浜鉄道株式会社」への運営移行時(平成20年)と比較し、輸送人員約30%増加に貢献。

## (取組の概要)

### 1. 地域住民、行政、交通事業者の連携



おらが湊鐵道応援団は結団10年目、回報は119号を迎えた



地元商店街で割引が受けられる乗車証明書

### 2. 情報発信とマイルール意識の醸成

- おらが湊鐵道応援団の「回報」を毎月発行。(計120報)  
(→海浜鉄道のイベント情報、地元住民の意見を共有)
- 那珂湊サービスステーションを設置し、土日祝に地域住民が来訪者の対応を実施。
- 地域住民のボランティアによる各駅の清掃活動(1/月)と線路沿い植栽・除草作業(3/年)



毎年元旦に運行される初日の出列車では、記念切符や食べ物も振る舞われる



那珂湊サービスステーションで観光案内を行う団員の



市内の空き家、車両を活用し「アートのかでひたちなか市を再生する」みなとメディアミュージアム(MMM)

### 3. 利用促進に関する活動

- 産(商店街・鉄道事業者)・学(大学生)・芸(アーティスト)との協働によるアートイベント、MMM(みなとメディアミュージアム)
- 特典乗車証明書(沿線の約100店舗で割引等が受けられる)
- 企画列車の運行支援(初日の出、絵手紙、バレンタイン列車等)



バレンタイン列車を飾る女子高生



応援団オリジナルのポストカードを販売



湊線の駅名標が2015年度グッドデザイン賞を受賞



四季毎異なるデザインのと「特性硬券1日フリー切符」と「湊線応援券」を発売



アニメ「ガールズ&パンツアー」とのコラボ企画切符



# えちぜん鉄道活性化連携協議会

(福井県福井市)



過去の重大事故からバス代行を経て地域に真に必要な鉄道として発足した「えちぜん鉄道」を、重要な社会基盤として支え続けるため、地域住民・自治体・事業者が協働し、きめ細かいサービス・需要の掘り起こし等により利用増を実現し、地域鉄道として「よみがえり」を果たす。

## (取組の概要)

### 1. 旅客サービスの向上

- アテンダントの乗務
  - ・乗車券販売に加え、乗継案内、乗降補助、観光案内などのサービス員を全国に先駆けて導入、その後全国へ波及



アテンダントの活躍

### 2. 利便性の向上

- 乗継利便性の向上
  - ・沿線の通学ニーズなどを踏まえ、「鉄道」、「軌道」の枠を超えた相互乗り入れを実現(えちぜん鉄道⇔福井鉄道)
  - ・えちぜん鉄道・福井鉄道間の乗継割引(最大25%割引)や共通1日フリーきっぷを設定
- 駅整備及び利用促進策等
  - ・地域の要望を受け、新駅(まつもと町屋)を設置
  - ・高齢者等に配慮したホームの改良や低床車両の導入
  - ・沿線自治体等による無料P&R駐車場の整備



地元小学生によるボランティア活動

### 3. 地域・関係事業者との連携

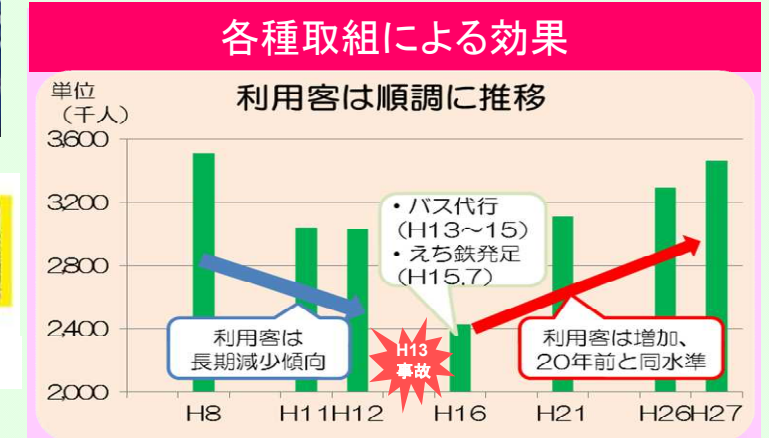
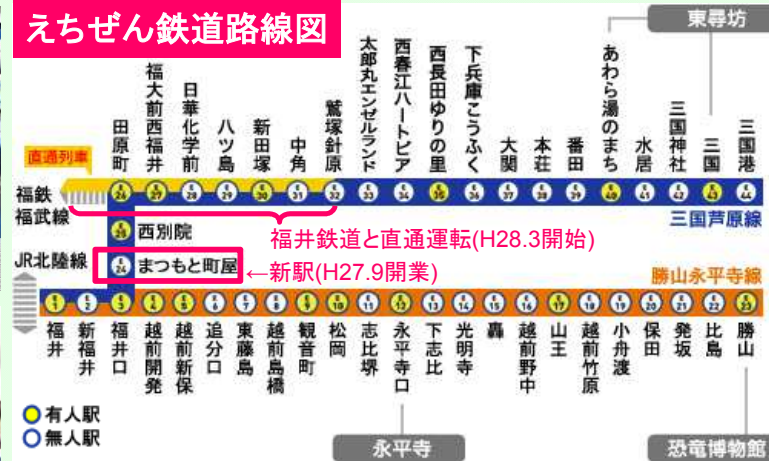
- サポーターズクラブの発足・活用
  - ・鉄道に「乗って残す」を掲げ、サポーター会が発足・活動
  - ・会員への運賃割引、協賛店等での割引や記念品の贈呈
- まちづくり、地域づくりとの連携
  - ・駅舎建替や駅前広場の整備、コミュニティセンター新設
  - ・地域交流拠点として駅前の喫茶店、店舗等の協力
- バス・鉄道の個別部会を設置
  - ・バス乗り継ぎ、鉄道相互利用の円滑化に向け部会で議論



サポーターズクラブ会員証



低床車両対応ホームの新增設(右側)





# 兵庫県宍粟市、(株)ウエスト神姫、篠陽タクシー(有) (兵庫県宍粟市)



市内に多く点在する公共交通空白地の解消を図るため、兵庫県下で初めて、市内全域をコミュニティバス等から事業者による路線バス(一般乗合旅客自動車運送事業)への再編を実施することにより、利用人員4割増(対前年度比)を達成。

## (取組の概要)

交通空白地	29自治会	→	0自治会
路線数(うち小型)	9(6)	→	29(25)

### 1. 交通ネットワークの構築

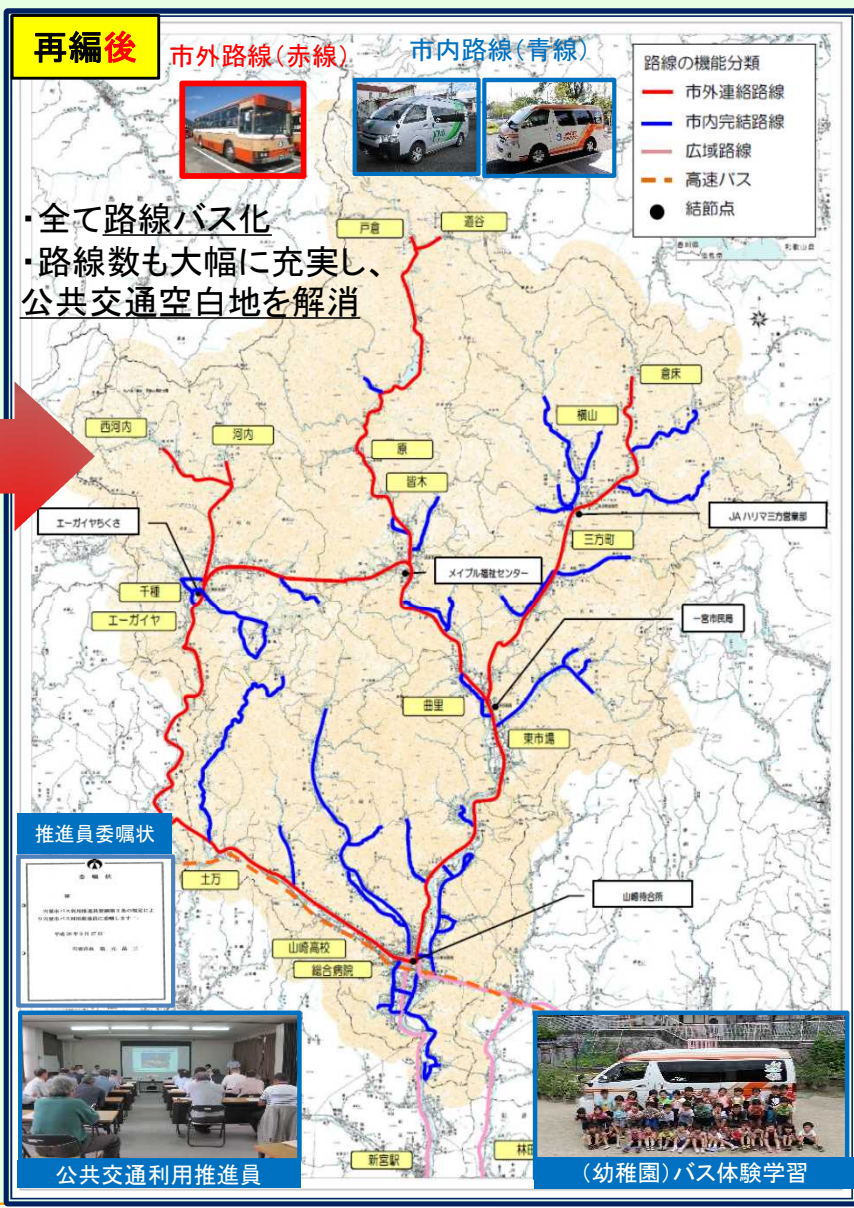
- 市内全域を市町村運営有償運送から一般乗合旅客運送事業へ再編
- 路線の大幅な充実により、市内に29か所あった公共交通空白地を解消
- 市では公共交通再編に関し、交通以外の部門(福祉・財政)を交えて議論  
定期的に事業者との会議も実施

### 2. 地域間格差を是正するため運賃を定額化

- 市内中心地まで、最大で1,360円だった運賃を定額200円に
- 市独自制度により精神障害者手帳所持者への支援を実施
- 各種制度(乗継制度、乗車券助成、特典付乗車券)を設定

### 3. 利用促進活動により利用者が増加

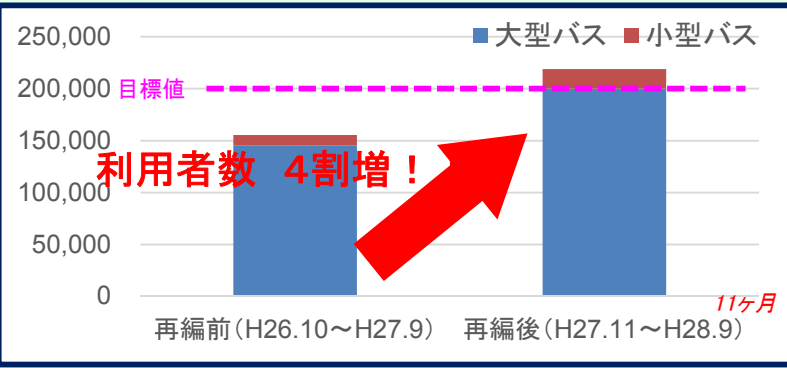
- 利用者年間目標20万人を初年度で達成(対前年度比4割増)
- 幼稚園・保育所にバスを持ち込み、バス乗車体験学習を実施
- 市民を公共交通利用推進員として委嘱し、各地区に配置(87名)
- 地域では自治会会計から回数券や1日乗車券を購入し、会員に無料配布
- 路線の見直し基準を設定し、路線ごとにきめ細かな運行の見直しが可能に



新聞記事

大型バス4路線 37%増

15年11月から11カ月 全体の乗客も22万人に





# 柏原校区自治協議会、西日本鉄道(株)、福岡県福岡市（福岡県福岡市）



地域住民が自ら生活交通確保のため、市の支援を得ながら交通事業者との協議を重ね、試行運行を実施。その後公的財政支援なしでの本格運行が実現。地域主体の生活交通確保のモデル事例となっており、同様の取組みが市内数地区で展開中。

## 【取組の概要】

### 1. 地域・交通事業者・行政の連携協力

- 市の生活交通条例(H22制定)に基づく施策として、地域主体の検討への経費補助、専門的なアドバイスなどを実施。
- 回送バスの一部を営業車両として地区内で運行させ、経費を圧縮。
- バスの地区内運行実現にむけて、運行に支障がある箇所に対して警察や道路管理者の協力により道路改良等を実施。また、路上駐車により運行に支障がある箇所には、地域が駐停車禁止を呼び掛ける看板を設置。

### 2. 地域、交通事業者、行政が役割分担して利用促進策を実施

- (地域) バス通信発行、定期集会でのバス利用呼びかけ、公民館行事をバスダイヤに合わせるなど
- (交通事業者) バス停新設、利用促進チラシのポスティング、地域住民を対象にしたバスの日イベントなど
- (行政) アンケートのとりまとめ、チラシ作成支援など

### 3. 地域を支える路線バスとして定着

- 関係者の努力により利用が定着し、本格運行が実現(公的財政支援なし)
- 定期券等の利用枚数も試行運行開始前に比べ倍増
- バス友が形成され、地域住民相互の見守り的な役割も生じるなど、地域コミュニティの向上にも貢献
- 現在も、定期的に関係者間で協議し、課題の共有を図っている。



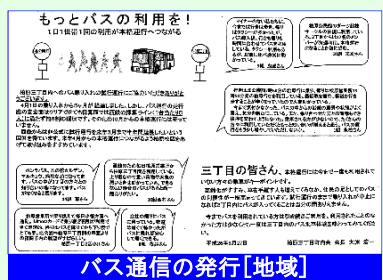
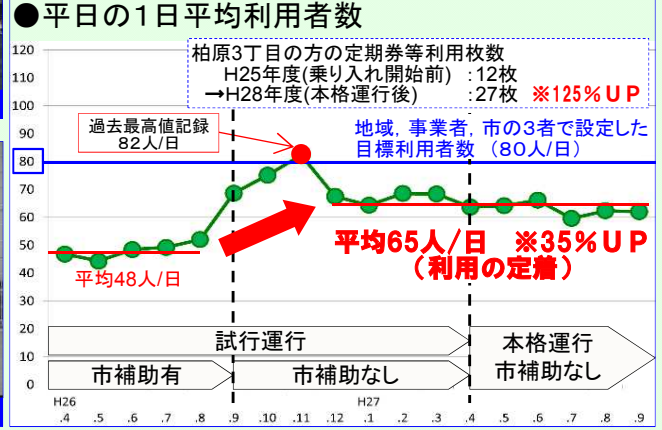
住民検討会



ルート上へのカーブミラー新設[市]



駐停車禁止呼びかけ看板[地域]



バス通信の発行[地域]



チラシのポスティング[事業者]



地域住民対象のバスの日イベント[事業者]



利用促進チラシ



本格運行出発式